



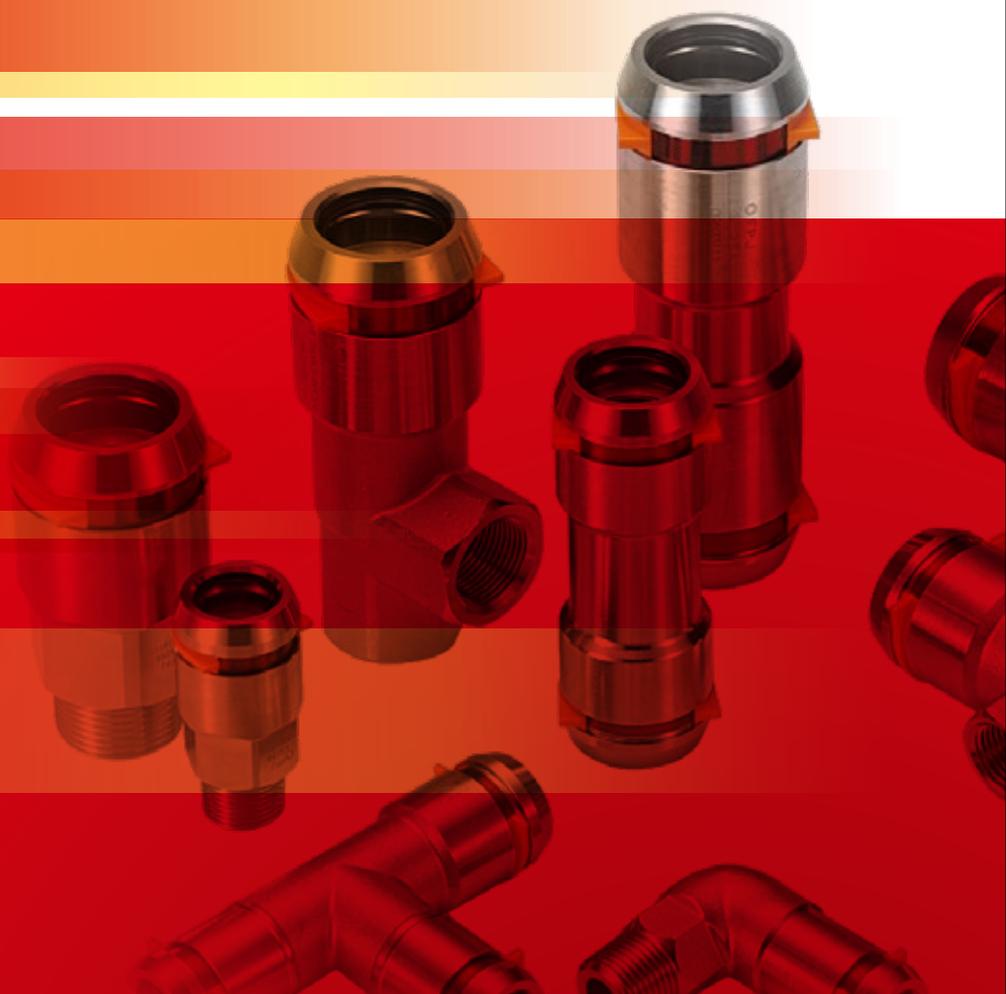
ガス用 フレキ管継手

ネオジョイント



ガス用 配管材料

フレキシブル管



さらにしなやか、 さらに自由自在に、 そしてさらにカンタンに…

時代の流れにフィットしたフレキシブルな材料たち、より充実!

住宅は今、新しい時代を迎えています。

ただ住む、という時代から住む人の個性が尊重され、美観性、機能性、そして快適性を重視する“質”を求める時代へと変わってきています。

そんなニーズに応えるため開発された「フレキシブル配管工法」が、さらにクオリティアップしました。

“フレキシブル管=自由自在管”が…その名のとおり、近年の様々な建築方法に自由自在に対応し、より豊かな生活環境づくりに貢献いたします。



ガス用 フレキ管継手
ユビコ 印 **ネオジョイント**

ガス用 配管材料
ユビコ 印 **フレキシブル管**



■ ご使用になる前に…

このカタログでは、製品を安全にお取扱いいただき、施工業者の皆様や、施工終了後の配管付近で生活する方々への危害、財産の損害等を未然に防止するため、本製品をご使用の際に守っていただきたい事項についてシンボルマークを表示しています。この「シンボルマーク」の意味を十分にご理解の上、ご使用下さい。



： 警告表示

この表示を無視して誤った施工を行うと、脱管・ガス漏れ事故が発生し、最悪の場合、死亡事故にもつながります。特にご注意下さい。



： 注意表示

この表示の項目を無視して誤った施工を行うと、脱管・ガス漏れ事故が発生する可能性があります。また製品自体破損する恐れがあります。ご注意ください。

フレキシブル配管とネオジョイント

装備の軽装化で運搬性、施工性がUP! 工期の短縮、コストダウン、 さらに保安向上、メンテナンスが容易化

近年の建築方法にスピーディーに対応する「フレキシブル配管工法」は可とう性をもつフレキ管で、必要なガス栓にフレキ管の引き回しと接続で配管を行う工法です。

POINT 1

シール性能の安定化

- ・パッキンのシール部をフレキ管の谷部に押し込む構造です。
- ・挿入前のフレキ管原管の状況 (=へこみ、傷など) に対する影響を低減します。

POINT 2

施工品質の安定化により、ヒューマンエラーを抑制

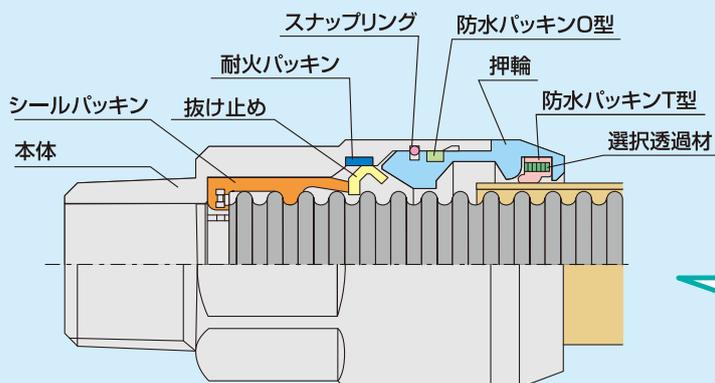
- ・押輪押し込み忘れを警告する為、押輪部に着色しています。
- ・フレキ管の挿入不足や被覆のはく離長さ不足でシールパッキンが所定の位置まで移動しないと、押輪が押し込めない構造となっているため、施工者自身が気づくことができます。
- ・フレキ管接続作業時、締め付け工具が不要です。

POINT 3

施工性の向上

- ・フレキ管挿入が軽くなっています。
- ・工具レス施工です。
- ・挿入時にクリック感があります。
- ・フレキ管が自由に回転します。

■ネオジョイントの構造図

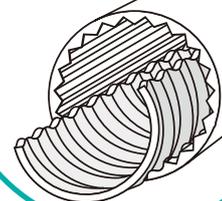


※選択透過材は、防水性を持ちながら通気性を持つもので、万一の釘打ちにも被覆の内面を伝わってくるガスを通し、釘打ちの漏れを発見できる機構です。

■適用範囲

流体: 都市ガス及びLPガス
圧力: 15kPa以下

フレキ管 イメージ図



ガス用 配管材料

ユビコ印フレキシブル管

時代の流れに
フィットした、
フレキシブルな材料

メンテナンスが容易
工期短縮が可能
運搬性、施工性もUP



ガス用 フレキ管継手

ユビコ印ネオジョイント

谷シール方式の
フレキ管継手

シール性能の安定化を実現
施工品質の安定化
挿入力低減

断面写真



断面写真(フレキ管挿入時)

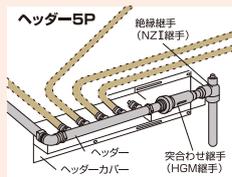
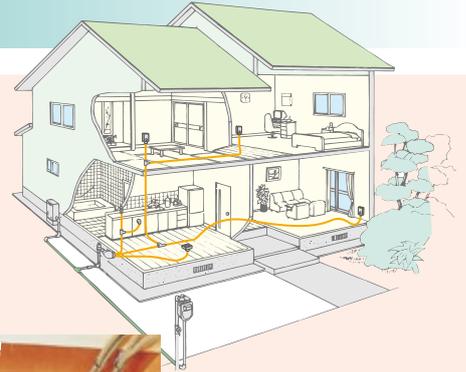


フレキシブル管の新設・増設 (戸建て住宅)

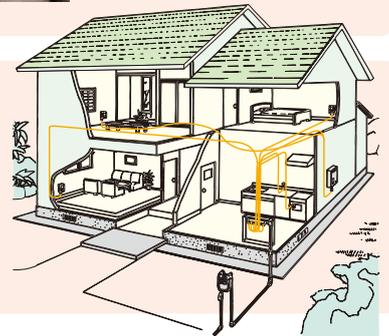
最近の戸建て住宅は、より低コスト化、工期の短縮化を求める顧客ニーズと、木材加工に関する熟練技能者の減少などへの対応策として、プレハブ工法やツーバイフォー工法などが主流になりつつあります。ところがこれらの工法は、工期が短く、床下、壁内、天井裏等の空間が狭いため、ガス配管をする側にとっては、従来の工法では困難な状態となっています。そこで可とう性を十分に備えたフレキ管を使用することにより、わずかなスペースで継目のない配管が行え、安全で施工性に優れた屋内ガス配管が可能になりました。

新設

●床下配管工法



●天井配管工法

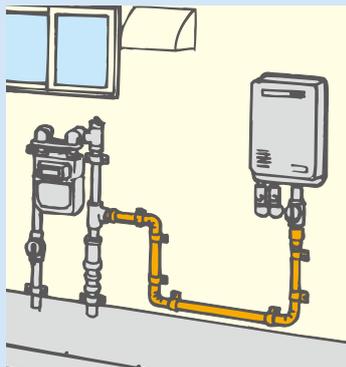


※建築構造によっては、一部配管方式が変わることがあります。

増設

●屋外増設

屋外増設の場合は材料組み替えによる分岐取出を行ってください。



●屋内増設

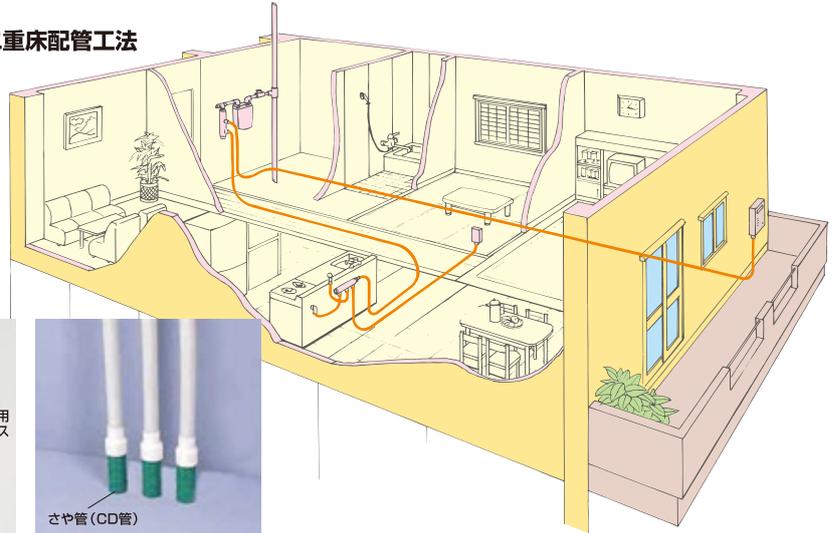
屋内の増設配管は、キッチンのガス栓に増設分岐継手を接続し、モールの中にフレキ管を配管することにより、室内の美観を損なうことなく、簡単に施工できます。



フレキシブル管の新設（集合住宅）

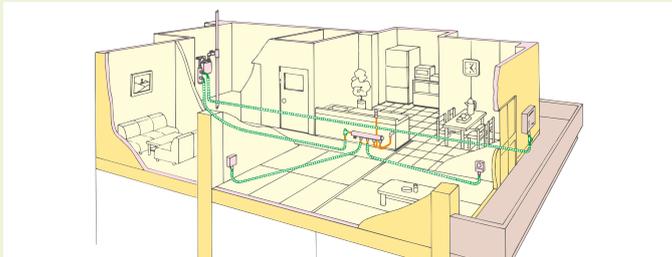
建築工法がますます多様化する方向にある集合住宅では、ガス配管以外の設備も密集するため、作業時間や配管スペースなどの条件が大変厳しくなっています。そこで、フレキシブル管の施工性、美観性といった数々の特性を生かした二重床配管、コンジット配管、側壁配管、天井配管などの各工法で施工することにより、作業時間が短縮でき、またわずかなスペースでそれぞれの建築工法に合った効率的な配管を行うことができます。

●二重床配管工法

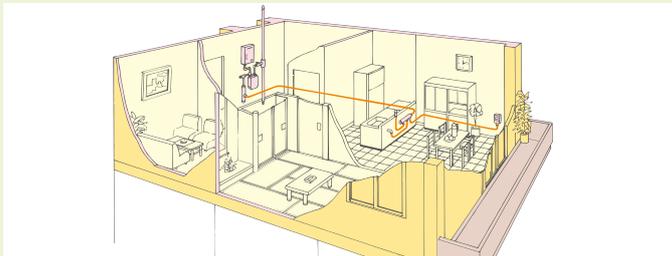


※機器接続ガス栓の自在継手部により機器と接続することもできます。

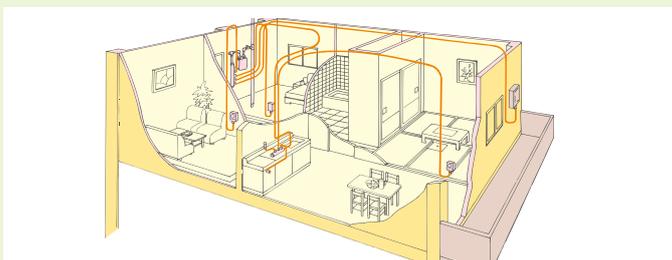
●コンジット配管工法



●側壁配管工法



●天井配管工法



フレキシブル管の圧力損失

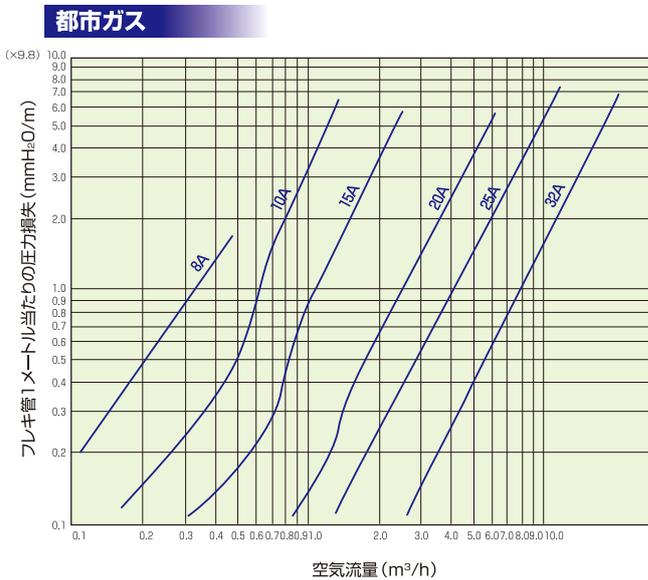
フレキシブル管口径の選択

フレキシブル管の圧力損失図から圧力損失値を求め各配管部の口径を決めます。

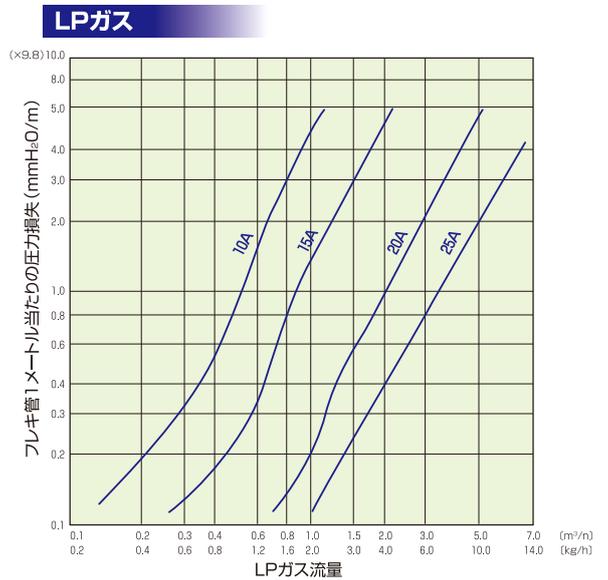
- 図に示す圧力損失は空気を流した場合のものであり、曲がり部（フレキシブル管2mに1箇所の曲がり、曲げ半径R=50mm）の影響をあらかじめ見込んでいます。
- 実際の場合の場合は、次式により設計ガス流量を空気流量に換算し、その空気流量における圧力損失の値をフレキシブル管の圧力損失図から読んで下さい。

$$Q_{air} = \sqrt{S \times Q_{gas}} \quad Q_{air}: \text{空気流量 (m}^3/\text{h)} \quad Q_{gas}: \text{設計ガス流量 (m}^3/\text{h)} \quad S: \text{ガスの比重 (空気=1)}$$

フレキシブル管口径の圧力損失図



▲日本ガス協会発行「ガス用ステンレス鋼フレキシブル管配管工法要領」による



▲高圧ガス保安協会発行「液化石油ガス配管用フレキシブル管施工マニュアル」による

LPガス配管可能距離

LPガスの場合は下記表を参考としてご覧下さい。

ヘッダーから末端閉止弁、ガス機器への配管可能距離

立ち上げ配管がない場合

(単位 m)

サイズ 消費量 (kg/h)	10A	15A	20A	25A
0.2	80.0 (0.10)	—	—	—
0.4	40.0 (0.20)	—	—	—
0.6	24.0 (0.33)	61.5 (0.13)	—	—
0.8	15.0 (0.52)	47.0 (0.17)	—	—
1.0	8.5 (0.94)	34.5 (0.23)	—	—
1.5	2.5 (2.70)	11.0 (0.72)	116.5 (0.12)	—
2.0	—	6.0 (1.30)	70.0 (0.20)	—
3.0	—	—	25.5 (0.54)	60.5 (0.23)
4.0	—	—	14.5 (0.96)	35.0 (0.40)
5.0	—	—	9.0 (1.50)	23.0 (0.60)

備考 1.フレキシブル10A及び15Aについては、末端閉止弁への接続とし、許容圧力損失はヘッダー方式で8mmH₂Oとした。
2.フレキシブル20A及び25Aについては、ガス機器への接続とし、許容圧力損失は14mmH₂Oとした。
3.表中の()内の数値はフレキシブル1mあたりの圧力損失を示す。(単位mmH₂O/m)

ヘッダーから末端閉止弁、ガス機器への配管可能距離

立ち上げ配管が3mある場合

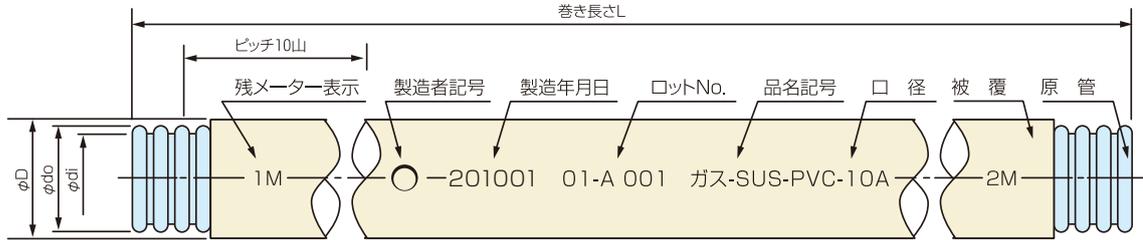
(単位 m)

サイズ 消費量 (kg/h)	10A	15A	20A	25A
0.2	50.0 (0.10)	—	—	—
0.4	25.0 (0.20)	—	—	—
0.6	15.0 (0.33)	38.0 (0.13)	—	—
0.8	9.5 (0.52)	29.0 (0.17)	—	—
1.0	5.0 (0.94)	21.5 (0.23)	—	—
1.5	1.5 (2.70)	6.5 (0.72)	91.5 (0.12)	—
2.0	—	3.5 (1.30)	55.0 (0.20)	—
3.0	—	—	20.0 (0.54)	47.5 (0.23)
4.0	—	—	11.0 (0.96)	27.5 (0.40)
5.0	—	—	7.0 (1.50)	18.5 (0.60)

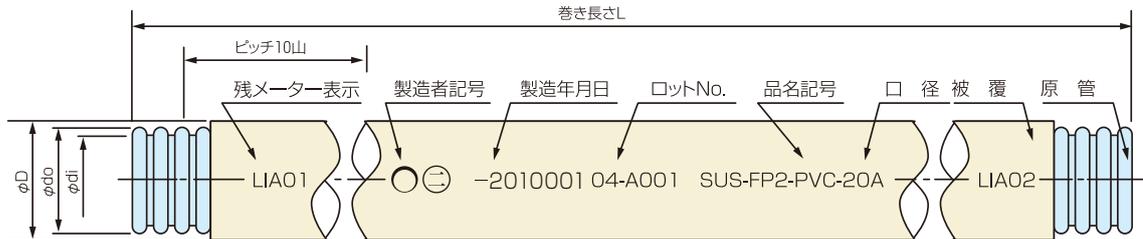
備考 1.フレキシブル10A及び15Aについては、末端閉止弁への接続とし、許容圧力損失はヘッダー方式で8mmH₂Oとした。
2.フレキシブル20A及び25Aについては、ガス機器への接続とし、許容圧力損失は14mmH₂Oとした。
3.表中の()内の数値はフレキシブル1mあたりの圧力損失を示す。(単位mmH₂O/m)
4.立ち上げ配管3mのため、圧力損失3mmH₂Oをあらかじめ差し引いた。

フレキシブル管の表示・寸法/配管できない場所

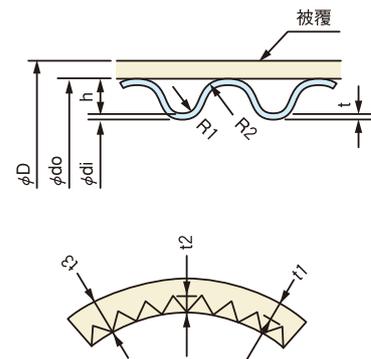
都市ガス用



LPガス用

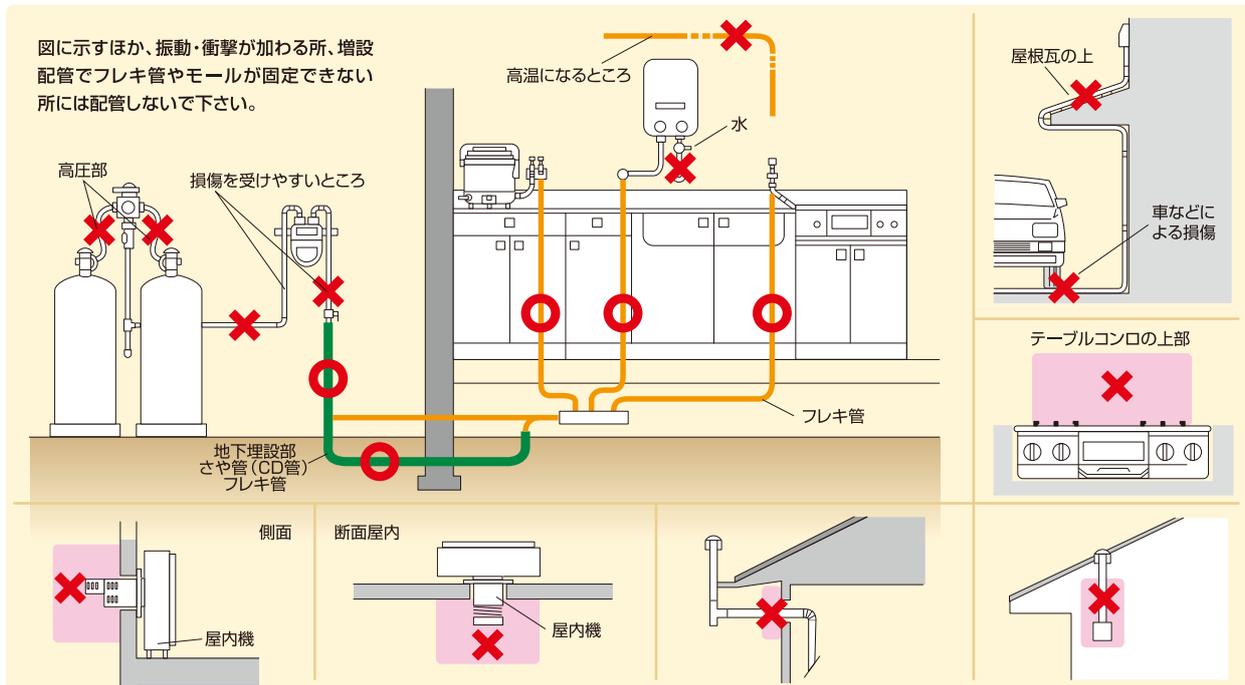


項目 口径	原 管				被 覆				被 覆 管			
	鋼帯厚さ t	外 径 φdo	内 径 φdi	ピッチ (10山)	半径(参考) R1 R2	山高さ (参考) h	ベース 厚さ t1	山高さ (参考) t2	被覆厚さ (参考) t3	山数 (参考)	外 径 φD	巻き長さ L(m)
8A	0.20	11.5	8.9	33.0	0.7 1.0	1.10	0.60	0.15	0.75	32	13.0	30
10A	0.20	14.2	11.5	34.0	0.7 1.0	1.15	0.60	0.15	0.75	40	15.7	30 60
15A	0.20	18.4	15.0	38.0	0.7 1.1	1.50	0.60	0.15	0.75	50	19.9	30 60
20A	0.20	24.2	20.8	42.0	0.8 1.2	1.50	0.60	0.15	0.75	65	25.7	30 60
25A	0.25	30.8	25.0	60.0	1.1 1.6	2.65	0.60	0.15	0.75	80	32.3	30 60
32A	0.25	38.8	32.0	70.0	1.5 1.95	3.15	0.60	0.15	0.75	100	40.3	30



配管できない場所

フレキ管は、ガス栓までの低圧部に使用して下さい。
また、以下に示す箇所は配管禁止場所です。



は配管不可の箇所です。

フレキシブル管の施工

● 施工前の確認事項



施工者の資格

資格が必要です!

LPガスの場合

液化石油ガス設備士の有資格者で高圧ガス保安協会または、経済産業大臣が指定し高圧ガス保安協会の確認を受けた養成機関が実施する、フレキシブル管施工者講習の課程を修了した者及び都市ガス事業者が実施する配管用フレキシブル管に関する講習の課程を修了し、高圧ガス保安協会に登録した者

都市ガスの場合

(一社)日本ガス協会が定める「内管工事資格制度」に基づき、講習を受講し修了するか資格試験を受験し合格した内管工事士の資格を有する者

液化石油ガス設備士

高圧ガス
保安協会

経済産業大臣
指定養成機関
(高圧ガス保安
協会確認)

都市ガス
事業者の
フレキシブル
管講習

フレキシブル管施工者講習

施工資格

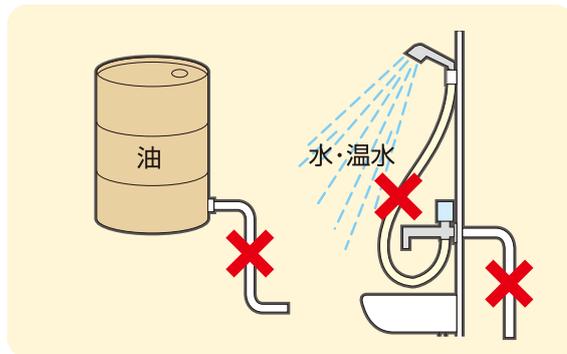
登録



使用の制限

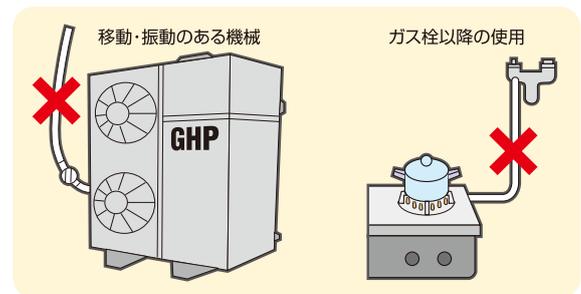
フレキシブル管は、ガス専用です!

水や油、温水等には使用しないで下さい。



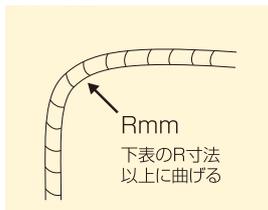
フレキシブル管は、ガス栓までの材料です!

フレキシブル管はガス栓までの使用に限ります。尚、フレキシブル管が破損する恐れがありますので、ガス栓が移動したり振動する場合も使用できません。



取扱い上の注意

《良い例》



□ 径	最小曲げ半径R (内半径)
8A, 10A, 15A	20mm
20A	25mm
25A	30mm
32A	40mm

《悪い例》 図のような取扱いは、しないで下さい!



● 取扱い注意事項・禁止事項

- 継手は投げたり、落としたりしないで下さい。
(部品の破損、異物混入の恐れがあります。)
- 継手は絶対に分解・改造をしないで下さい。
- 継手の再使用は禁止です。
- 継手の接続作業は資格者自らが行って下さい。
- 接続作業前に継手内部に異物が無いことを確認して下さい。
- スペースはフレキ管を継手に挿入し終わるまで取り外さないで下さい。
(使用できなくなります。)
- 継手をねじ込むときはスパナまたはフレキ用メカレンチ、モンキーレンチを使用して下さい。
(継手の変形する恐れがあるので、パイプレンチは使用厳禁です。)
- 関連の法令、基準、要領、マニュアルを遵守して下さい。

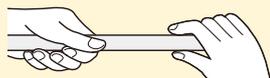
● 接続のPOINT

- フレキ管の切断は専用のフレキ管用パイプカッターを使用して下さい。
- フレキ管被覆の剥離は8山です。
- フレキ管は必ず目視検査を行ない、フレキ管継手にまっすぐ挿入して下さい。
- フレキ管挿入後にスペースを外し、押輪を確実に押込んで下さい。
- 接続後、フレキ管を引っ張り接続確認を行って下さい。

● ネオジョイントの接続要領

1. フレキ管の準備

・接続するフレキ管をまっすぐにします。(先端から10cm以上)

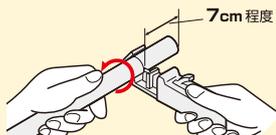


⚠ 注意事項

- ・必ずフレキ管をまっすぐにします。
- ※切断後では管端部などまっすぐにするのが難しい部位もあるので、必ず切断前に管をまっすぐにしておくこと。

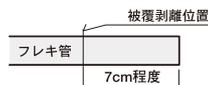
2. フレキシブル管被覆の剥離

・フレキ管の先端の被覆を7cm程度剥離します。



⚠ 注意事項

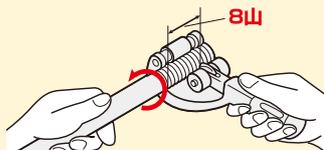
・剥離の長さが短いと正常なフレキ管切断ができません。



・剥離した被覆を引き抜く際に、フレキ管切断面のカエリに注意します。

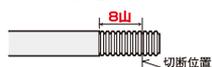
3. フレキ管の切断

・必ず専用のフレキ管用パイプカッターを使用します。
・フレキ管の被覆端から素管を8山残した位置で切断します。



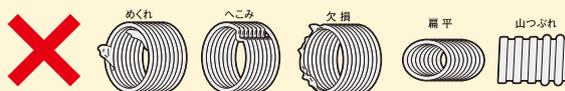
⚠ 注意事項

- ・フレキ管をまっすぐにしてから切断して下さい。
- ・フレキ管被覆は8山剥離した状態になっていることを確認します。



4. 切断面の目視検査

・切断面にバリ、めくれ、へこみ等がないこと及びフレキ管が扁平、山つぶれていないことを確認します。



・フレキ管接続部がまっすぐになっていることを確認します。



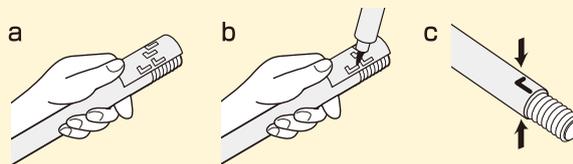
曲がっている管は使用不可。挿入不良の原因となります。

⚠ 注意事項

- ・目視検査で不良の場合は、再度①の手順からやりなおして下さい。
- ・フレキ管が曲がっている場合は、必ずまっすぐにして下さい。

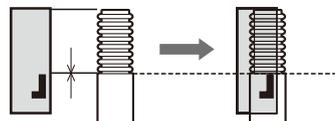
5. フレキ管へのマーキング

- マーキングツール端部をフレキ管の先端に引っ掛けます。
- 油性ペン(マジックなど)でし字のマーキング穴を塗りつぶしマーキングします。
- 接続後の確認をしやすいように、必ず2箇所行います。



⚠ 注意事項

- ・マーキングはフレキ管をまっすぐにして行って下さい。
- ・マーキング治具のサイズ表示を確認し、フレキ管サイズに合わせてマーキングして下さい。
- ・高所や狭い所での接続時については、更にマーキング数を増やすなどの工夫をして下さい。



8山残して切断されているとき、マーキング穴上端と被覆先端位置がほぼ一致します

6. マーキング確認

- ・マーキングがフレキシ管原管についていないことを確認します。
- ・原管についているときは**山数を再確認**します。

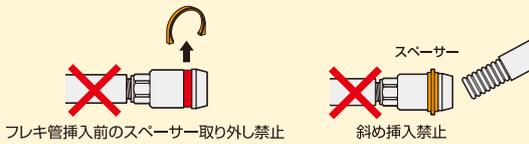
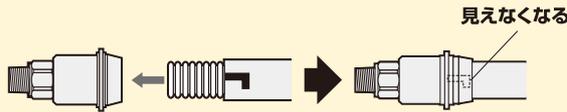


⚠️ 注意事項

- ・山数が多いと継手とフレキシ管の間の防水性が低下し、フレキシ管の腐食原因となります。

7. ネオジョイントへのフレキシ管の挿入

- ・フレキシ管を**まっすぐ**にしてください。
- ・継手にフレキシ管の**被覆が入り込むまでまっすぐ**挿入します。
- ・フレキシ管を**継手の奥に突きあたるまでまっすぐ**に押し込みます。(クリック感で押し込みの確認ができます。)
- ・マーキングが見えない事を確認して下さい。



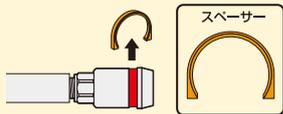
⚠️ 注意事項

- ・被覆が8山剥離されていることを確認して下さい。(7山剥離以下では正常な挿入は不可。)
- ・スペーサーが継手より外れていないことを確認して下さい。
- ・フレキシ管はまっすぐに挿入して下さい。
- ・フレキシ管が短い場合、被覆がずれないようにフレキシ管を強く握って挿入して下さい。

挿入時にスムーズに挿入できないなど異常を感じた場合は、再度フレキシ管を引き抜き④の目視検査を行い、管を正しい状態にした後、再度まっすぐに挿入して下さい。

8. スペーサーの取り外し

- ・フレキシ管が正常に挿入されてからスペーサーの取り外しを行います。

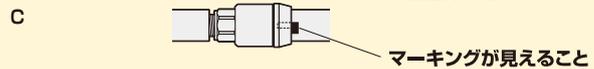
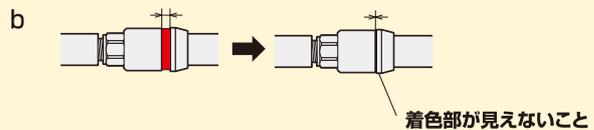
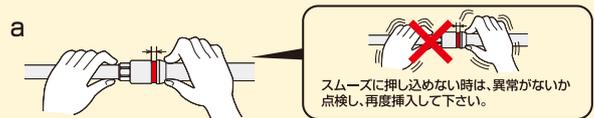


⚠️ 注意事項

- ・この手順まではスペーサーを取り外さないで下さい。

9. 押輪の押し込み

- a: 押輪が本体にあたるまで**確実に押し込み**ます。
- b: 押輪着色部が見えないことを確認します。
- c: マーキングが見えることを確認します。



⚠️ 注意事項

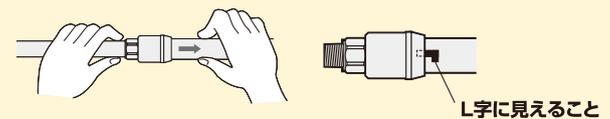
- ・押輪がスムーズに押し込めないなど異常を感じた場合は、下記のABCDを行ない再度⑥以降の手順で接続します。

- A: 押輪を押し込み前の位置に戻す。
- B: スペーサーを元の位置に取り付ける。
- C: フレキシ管をネオジョイントより引き抜く。
- D: フレキシ管の管端及び剥離長さを確認する。

- ・8山切断されており管が正しい状態であることが確認できたら、再度フレキシ管を挿入し、押輪を押し込みます。

10. 接続確認

- ・押輪を押し込んだあと、**フレキシ管を引っ張り、押輪およびフレキシ管が抜けない**ことを確認します。
- ・管軸方向にわずかに動くことを確認して下さい。
- ・その際、マーキングがL字になっていることを確認して下さい。



⚠️ 注意事項

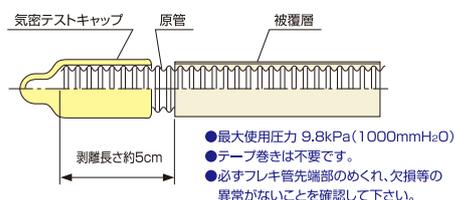
- ・押輪を握らずに、フレキシ管を引っ張って下さい。
- ・フレキシ管が短い場合、被覆がずれないように注意して下さい。
- ・接続完了後、フレキシ管は回転させることができ、管軸方向にもわずかに動きます。

気密検査

施工完了後は、必ず所定の圧力、方法で気密試験を実施し、漏れがないことを確認願います。

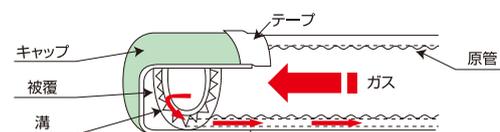
気密検査時のご注意 フレキシ管の片側が継手と接続されていない場合

フレキシ管施工時に気密検査を行う場合、フレキシ管継手の接続されていない側の被覆層を5cm以上剥離し、下図のように気密テストキャップを被覆層に触れないように原管に取付け、気密検査を行って下さい。



⚠️ 注意事項

フレキシ管、継手の構造上、従来の検査方法を行いますと下図のように、管内のガスが原管と被覆層の間を通り継手から外部へ流出するため適切な気密検査ができないのでご注意下さい。



フレキシブル管の配管材料

NFP-01 ネオジョイント 片ねじソケット



規格	入数	都市ガス用	LIA検定品	二面幅
8A×R ¹ / ₂	80個	●		22mm
10A×R ¹ / ₂	80個	●	●	23mm
15A×R ¹ / ₂	60個	●	●	26mm
20A×R ¹ / ₂	40個	●		33mm
20A×R ³ / ₄	40個	●	●	33mm
20A×R1	40個	●		35mm
25A×R ¹ / ₂	20個	●		40mm
25A×R ³ / ₄	20個	●	●	40mm
25A×R1	20個	●	●	40mm

※32Aについては別途お問い合わせ下さい。

NFP-04 ネオジョイント ソケット



規格	入数	都市ガス用	LIA検定品
8A	72個	●	
10A	72個	●	●
15A	32個	●	●
20A	28個	●	●
25A	16個	●	●
25A×20A	16個	●	

NFP-02 ネオジョイント 分岐チー



規格 ①×②×③	入数	都市ガス用	LIA検定品
10A×8A×8A	36個	●	
10A×8A×10A	36個	●	
10A×10A×10A	36個	●	●
10A×15A×10A	36個	●	●
15A×10A×10A	30個	●	●
15A×15A×10A	30個	●	
15A×10A×15A	30個	●	●
15A×15A×15A	30個	●	●
20A×10A×10A	16個	●	●
20A×20A×10A	16個	●	●
20A×10A×15A	16個	●	
20A×15A×15A	16個	●	●
20A×10A×20A	16個	●	●
20A×15A×20A	16個	●	●
20A×20A×20A	16個	●	●
25A×10A×20A	12個	●	●
25A×15A×20A	12個	●	
25A×20A×20A	12個	●	●
25A×10A×25A	12個	●	●
25A×20A×25A	12個	●	●

NFP-05 ネオジョイント 内ねじソケット



規格	入数	都市ガス用	LIA検定品	二面幅
10A×Rc ¹ / ₂	80個	●	●	26mm
15A×Rc ¹ / ₂	60個	●	●	27mm
20A×Rc ¹ / ₂	40個	●	●	33mm
25A×Rc ³ / ₄	20個	●		40mm

NFP-06 ネオジョイント L型



規格	入数	都市ガス用	LIA検定品	二面幅
8A×R ¹ / ₂	60個	●		23mm
10A×R ¹ / ₂	60個	●	●	23mm
15A×R ¹ / ₂	60個	●	●	23mm

NFP-03 ネオジョイント 分岐チー(枝ねじ)



規格 ①×②×③	入数	都市ガス用	LIA検定品	二面幅
15A×Rc ¹ / ₂ ×15A	30個	●	●	26mm
20A×Rc ¹ / ₂ ×15A	16個	●		26mm
20A×Rc ¹ / ₂ ×20A	16個	●	●	26mm
25A×Rc ¹ / ₂ ×25A	12個	●	●	35mm
25A×Rc ³ / ₄ ×25A	12個	●		35mm

NFP-07 ネオジョイント ヘッダーチー



規格	入数	都市ガス用	LIA検定品	二面幅
20A×Rc ³ / ₄	16個	●		35mm
25A×Rc ³ / ₄	12個	●		35mm

⊘ LPガス配管には、必ず((財))日本LPガス機器検査協会自主検査合格品(LIA自主検査合格品)をご使用下さい。

フレキシブル管の配管材料

NFP-09 ネオジョイント 増設分岐継手



規格	入数	都市ガス用	LIA検定品	二面幅
10A	36個	●	●	28mm

FP-12 壁貫通カバー



規格	入数
10A~15A	20個

フレキシブル管の外壁貫通部に取付ける防水カバー。

FP-00 フレキシブル管(漏れ検査機能付)



規格	入数			
	都市ガス		LIA検定品	
	30m	60m	30m	60m
8A	1			
10A	1	1	1	1
15A	1	1	1	1
20A	1	1	1	1
25A	1	1	1	
32A	1			

FP-13 片サドル固定金具



規格	入数
10A	(20個×100袋) 2000個
15A	(20個×50袋) 1000個
20A	(20個×50袋) 1000個
25A	(20個×25袋) 500個

外壁配管時のフレキシブル管支持固定に使用。

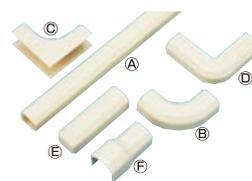
FP-02 継手カバー



規格	入数
10A	(10個×20袋) 200個
15A	(10個×20袋) 200個
20A	(10個×20袋) 200個
25A	(10個×20袋) 200個

著しく、水気・湿気が多い箇所で使用
FPジョイントなどの防水・防錆カバー。

FP-16 モール



規格	入数
①モールケース10A	2.1m×20本
15A	2.1m×20本
②エルボカバー10A	(10個×20袋) 200個
15A	(10個×18袋) 180個
③入隅カバー	10A (10個×10袋) 100個
15A	(10個×10袋) 100個
④出隅カバー	10A (10個×10袋) 100個
15A	(10個×8袋) 80個
⑤壁カバー	10A (10個×25袋) 250個
15A	(10個×24袋) 240個
⑥ガス栓カバー10A	(10個×20袋) 200個
15A	(10個×12袋) 120個

フレキシブル管のモールカバー

※⑥は全長100mmのロング仕様となっております。

FP-03 管末キャップ



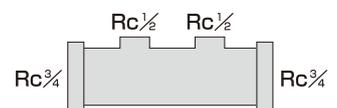
規格	入数
8A	(20個×5袋) 100個
10A	(20個×5袋) 100個
15A	(20個×5袋) 100個
20A	(20個×5袋) 100個
25A	(20個×5袋) 100個

配管工事中、フレキシブル管内への水・ごみ等の進入防止に使用。

FP-21 ヘッダー



規格	入数
2P	50個
3P	40個
5P	20個



フレキシブル管の分配に使用。

FP-26 よろい管



規格	入数
8A・10A (KJ-19T)	30m×1巻
15A (KJ-25T)	30m×1巻
20A (KJ-31T)	15m×1巻
25A (KJ-39T)	15m×1巻

ホルソーなどの貫通工事に対するフレキシ管損傷防止に使用。

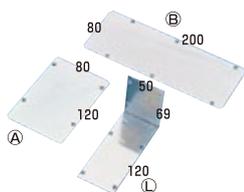
FP-31 フレキストッパー



規格	入数
15A	1個
20A	1個

バスコンジット内に水等が入らない様、保護するキャップ。

FP-27 フレキ管防護板



規格	入数
Ⓐ (中)	50枚
Ⓑ (大)	50枚
Ⓘ (L型)	50枚

クギ打ちなどによるフレキシ管の損傷に対する防護に使用。

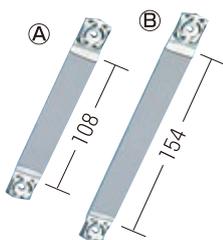
FP-32 バスコンジット



規格	入数
2m	1本
4m	1本

浴室下部でのフレキシ管の保護に使用

FP-29 フレキサドル



規格	入数
Ⓐ (1~2本支持固定)	100枚
Ⓑ (2~3本支持固定)	100枚

床下・天井でのフレキシ管の支持に使用。

FP-35 座付エルボ



規格	入数
15A (Rc1/2)	(20個×4箱)80個

ガス栓取付用固定、座付エルボ

FP-30 ハンガーサドル



規格	入数
Ⓑ (20A・25A兼用)	100個
Ⓐ (8~15A用)	100個
Ⓓ (10A分岐チー用)	100個

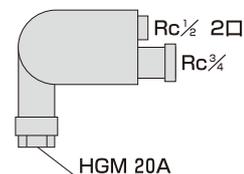
床下・天井でのフレキシ管・継手の支持に使用。

NFP-46 丸形ヘッダー



規格	入数
20A	12個

コンパクトなヘッダー



※HGMの接合材をご使用下さい。

⊘ LPガス配管には、必ず((財))日本LPガス機器検査協会自主検査合格品(LIA自主検査合格品)をご使用下さい。

フレキシブル管の配管材料

FP-53 防水カバー



規格	入数
10A	(20個×10袋) 200個
15A	(20個×10袋) 200個
20A	(20個×10袋) 200個
25A	(20個×10袋) 200個

外壁、基礎部フレキシブル管の貫通部処理に使用。

FP-54 気密テストキャップ



規格	入数
8A	20個
10A	20個
15A	20個
20A	20個
25A	10個

フレキシブル管の片側が継手と接続されていない場合の気密検査に使用。

注) 気密テストキャップは、必ず被覆を剥離した原管に取付けて下さい。

FP-55 増設分岐継手



規格	入数
15A (1/2B)	10個

既設のねじガス栓接合部の組替えによる分岐に使用。

フレキシブル管の配管用工具

※以下の商品は取り扱い商品となっております。

FT-2 パイプカッター



8A~32A

FT-10 マグネット



FT-3 被覆剥離カッター



8A~32A

FT-11 トレスター



FT-4 パイプリール



◎20A~25A

FT-18 フレキ先止め工具



FT-6 モールカッター



10A~15A

FT-19 金切りはさみ



FT-7 ハンドベンダー



FT-22 スプリングクランプ



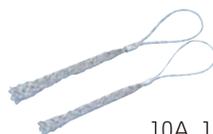
FT-8 パイプアングラー



NFT-29 マーキングツール



FT-9 パイプグリップ



10A、15A

■フレキシブル管の取扱いについて…

1. 施工上の注意事項

フレキシブル管(フレキ管)を正しく安全に施工していただくために、次の事項をお守り下さい。

- ガスメーター出口から燃焼機器までの間で、本製品をLPガス用として使用する場合、使用場所によっては消費生活用製品安全法の適用を受けるため施工上の注意事項を正しく守り作業を行うようお願いいたします。

●施工者の資格

フレキ管を施工するには、それぞれ次の資格が必要です。

LPガスの場合：液化石油ガス設備士でかつフレキ管施工者講習を修了した者。
都市ガスの場合：内管工事士の資格を有する者。

●施工場所の限定

(1)用途の制限 フレキ管はガス専用です。水や油、温水等には絶対使用しないで下さい。

(2)施工場所 フレキ管は0.1MPa(1kgf/cm²)未満の一般低圧ガス配管に使用します。

(3)配管禁止場所 次の場所での配管は禁止です。

- ①高温・高圧となる可能性のある場所
- ②増設配管で、フレキ管や配管モールの固定が出来ない場所
- ③フレキ管が容器交換時に損傷を受ける恐れのある場所(LPガスの場合)
- ④配管が人や車両等によって踏まれたり、潰されたりする可能性の高い場所
- ⑤配管に振動、衝撃が加わる場所
- ⑥土中、コンクリートの直埋設部
- ⑦ケーブル線や電気配線等と接触する場所

●フレキ管取扱いの注意

- ①最小曲げ半径(P.11参照)を守り、それ以下の半径で曲げないで下さい。
- ②管をねじったり、必要以上に引っ張ったりしないで下さい。

③管に強い衝撃を与えたり、踏み付けたりしないで下さい。

④変形・傷・異物付着等を防止のため、管の切断面には絶対触れないで下さい。また、手など損傷する恐れがありますので注意して下さい。

2. 保管上の注意事項

保管中の不備によるフレキ管の変形や損傷を避けるため、次の事項に注意して下さい。

- ①フレキ管の保管は、原則として雨水にさらされない屋内とします。
- ②ケース内保管とし、重量物の上積み(箱がつぶれるような)は避けて下さい。
- ③高温になる場所での保管は避けて下さい。

3. 運搬上の注意事項

運搬中の不備によるフレキ管の変形や損傷を避けるため、次の事項に注意して下さい。

- ①投下厳禁です。慎重にお取扱い下さい。
- ②重量物の上積みは避けて下さい。
- ③強い衝撃を避けて下さい。

4. 点検

施工時は必ず外観点検を行って下さい。

変形、損傷のあるフレキ管は必ずその部分を除去してご使用下さい。万一そのまま施工し、放置した場合、ガス漏れ事故の原因となり大変危険です。特に長期にわたる保管、また運搬、施工中に不注意な取扱いを行った恐れのある場合などは、十分注意して点検して下さい。

5. 気密試験

施工完了後は必ずガス事業法、液石法に定められた気密試験を行って下さい。

■フレキ管継手ネオジョイントの取扱いについて…

1. 施工上の注意事項

フレキ管継手ネオジョイントを正しく安全に施工していただくために、次の事項をお守り下さい。

- ①フレキ管被覆は8山で剥離して下さい。
- ②フレキ管の切断は専用のフレキ管用パイプカッターを使用して下さい。
- ③フレキ管はフレキ管継手にまっすぐに挿入して下さい。
- ④フレキ管挿入後、スペーサーを外し、押輪を確実に押込んで下さい。
- ⑤接合後、フレキ管を引張り接合確認をおこなって下さい。

2. 取り扱いの注意

- 継手は投げたり、落としたりしないで下さい。
部品の破損、異物が混入する恐れがありガス漏れの原因になります。
- 継手は絶対に分解・改造をしないで下さい。
- 継手の再使用は禁止です。
- 継手の接続作業は資格者みずから行うようにして下さい。
- 接合作業前に継手内部に異物が無いことを確認して下さい。
- スペーサーはフレキ管を継手に接続するまで取り外さないで下さい。
- 継手をねじ込む時はスパナ又はフレキ用モンキーレンチを使用してください。パイプレンチは厳禁です。継手の変形し、ガス洩れの原因になります。
- 関連の法令、基準、要領、マニュアルを順守して下さい。



日本継手

- このパンフレットに記載されている内容は、製品についての情報提供を目的として作成されているため、詳細については当社（本社、営業部または各営業所）までお問い合わせの上、施工を行って下さい。
- 記載の規格・仕様等は、予告なく改訂することがありますので、ご了承下さい。
- このパンフレットに記載されている適用範囲外で製品をご使用になった場合、または当社に相談なく製品を改造して、ご使用になった場合に発生した事故等につきましては、当社では責任を負いかねますので、ご了承下さい。
- 当社の印刷物には、すべての裏表紙の右下に発行日を記しています。常にこの日付の新しいものをご覧いただくよう、お願い致します。最新の日付の確認は、当社までお問い合わせ下さい。
- パンフレット記載の規格・仕様は製品改良のため、予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

お問い合わせは -----



日本継手株式会社

本社・工場 大阪府岸和田市田治米町153番地の1
〒596-0805 TEL 072(445)0285(代) FAX 072(445)0291

本社営業部 大阪府岸和田市田治米町153番地の1
〒596-0805 TEL 072(445)6441 FAX 072(445)6013

東京営業部 東京都台東区蔵前2丁目17番4号JFE蔵前ビル3F
〒111-0051 TEL 03(5823)1651 FAX 03(5823)1653

東北営業所 仙台市宮城野区扇町2丁目4-28
〒983-0034 TEL 022(238)3860 FAX 022(238)3886

中部営業所 名古屋市中川区富船町4丁目1-8岡谷物流株式会社番船第2物流センター内1F
〒454-0823 TEL 052(352)4191 FAX 052(353)5153

九州営業所 福岡市博多区西月隈3丁目2番27号
〒812-0857 TEL 092(471)7456 FAX 092(471)1894



NPF OFFICIAL HOMEPAGE
<https://www.nippon-pf.co.jp>

2023年5月改訂
202305-